

# 14 寺尾第二地区



## 1. 第4期計画策定（令和3年度～7年度）



### 世代を超えて未来につなごう 地域の輪

目標1 思いやりで老いも若きも支え合おう

#### ■5年間の具体的な取組

- ①あいさつと思いやりの心を缶バッジで広げる。
- ②向こう三軒両隣、ご近所同士の声かけで支え合う。
- ③地域の見守りで、安心して暮らせる私たちの町に。



交流 多様な主体	支えあい 見守り	健康
人 材		
相互理解		
場・機会		

区計画とのつながり

目標2 誰もが絆を深めて、地域力を高めよう

#### ■5年間の具体的な取組

- ①楽しい催しで、多世代交流の場を増やす。
- ②世代を超えた連携で、防災意識を高める。
- ③地域の自然や歴史を生かした企画で、誰もが愛着をもてる地域にする。



【老いも若きも】

交流 多様な主体	支えあい 見守り	健康
人 材		
相互理解		
場・機会		

区計画とのつながり

### <第3期計画の取組の様子>



【お楽しみ福祉大会】



【多世代交流会 学んでご飯】



【地域カフェ】

## 2. これまでの取組について

### <第3期計画の主な取組内容（平成28年度～令和2年度）>

#### 世代を超えて未来につなごう 地域の輪



① 老いも若きも、思いやりの心を育てよう

② それぞれが楽しみながら連携し、地域力を高めよう！

- 平成27年の馬場地域ケアプラザ開所により、単一地区の取組となって寺尾第二地区の課題がさらに明確になり、取り組みが具体化しやすくなりました。また、寺尾第二地区社会福祉協議会が推進母体となることにより、スピーディーな対応ができるようになりました。
- その一つの例が、**缶バッチの取り組み**です。平成28年11月に開催されたあいねっと地区懇談会のグループワークで、「声掛け活動の証となる缶バッチを作っては」との声がきっかけとなり、翌年6月にデザイン公募、8月には完成するという素早い取り組みが実現しました。
- また、世代を超えた取り組みの一つが**多世代交流会 学んでご飯**です。地域の高校生が、小・中学生の学習支援をし、地域の方が作ってくださった夕食を頂き、帰りは地域の方がお子さんたちを送ってくださり、地域から材料の提供があるなど、この交流会は、地域の力を結集した交流の場と言えるでしょう。
- さらに、**地域での見守り活動**についても、令和元年までに全自治会町内会で見守りの体制が整い、互いの情報を共有し互いの良いところは取り入れるべく“つながり連絡会議”も立ち上げました。また、地域で見守りに携わる方々を中心に、地域に住んでいらっしゃる高齢者や障がいのある方々への理解を深めるため、認知症サポーター養成講座や障がい理解のための講座を毎年開催するなど、安心して相談できるまちづくりを目指し取り組んでいます。その一つのツールとして、地区内に多くの地域カフェや様々な交流の場が増えています。

### <第4期計画策定に向けて>

#### ①第1回寺尾第二地区あいねっと準備会（R3.6.30 開催）

町内会や地区社協の代表が参加し、第4期計画案の目標及び具体的な取組について検討を行いました。「子供だけではなく『高齢者』『障害者』の見守りもキーワードに入れたい」「第3期は、実行力を生かした。誰かが声を上げると広がる副産物がたくさんあった」「コロナ禍でも『つながっていた感』がある」などの意見が出ました。



#### ②寺尾第二地区あいねっと会議（R3.10.25 開催）

町内会長、民生委員の代表が4グループに分かれ、第4期計画案についてグループワークしました。「活動の担い手を発掘したい」「今ある『地域カフェ』のようなものが色々な地区にできるとよい」など、各グループからたくさんの意見が出ました。



#### ③第2回寺尾第二地区あいねっと準備会（R3.11.9 開催）

あいねっと会議で出た意見を踏まえ、第4期計画を策定しました。